



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月6日

上場会社名 株式会社リグア 上場取引所 東
コード番号 7090 URL https://ligua.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川瀬 紀彦
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 大浦 徹也 TEL 06 (7777) 0159
四半期報告書提出予定日 2024年2月8日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	2,615	33.1	230	—	111	—	85	—	75	—
2023年3月期第3四半期	1,965	△22.3	△281	—	△463	—	△476	—	△389	—

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 75百万円 (—%) 2023年3月期第3四半期 △390百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	52.33	51.81
2023年3月期第3四半期	△277.31	—

(注) 1. EBITDA=営業損益+減価償却費+のれん償却費

2. 2023年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	3,966	571	14.4
2023年3月期	3,373	353	10.5

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 570百万円 2023年3月期 353百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,567	25.7	170	—	150	—	90	—	62.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	1,494,400株	2023年3月期	1,418,800株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	22,441株	2023年3月期	15,689株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	1,440,945株	2023年3月期3Q	1,403,322株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明内容の入手方法）

四半期決算補足説明資料は、T D n e t で同日開示した後に当社ウェブサイトに掲載いたします。また、代表取締役社長による決算説明の動画を当社ウェブサイトにて配信する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年12月31日まで)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類移行に伴い、経済活動の正常化が進む中で、インバウンド需要や個人消費等景気は緩やかな回復傾向にあります。しかしながら、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や世界的な原材料価格の高騰、急激な円安進行の影響など景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、「人生から不安をなくし、生きるをサポートする。」というブランドパーパスを掲げ、予防医療と金融サービスの提供を事業の柱とし、「からだ」と「おかね」という人生における2つの大きな『不安』をなくしていくことで、誰もが心から豊かで前向きになる『Wellness Life』が溢れる社会を実現してまいります。

「からだ」を担うウェルネス事業では、接骨院を中心としたヘルスケア産業に対して経営・運営における様々な問題(売上減少、資金難、経営戦略不全、教育制度の未整備等)に対する経営ソリューションの提供を行ってまいりました。また、健康サポート分野では、IFMC.技術を用いた幅広い消費者向けの商品・サービスの提供を行ってまいりました。

「おかね」を担うファイナンシャル事業では、保険代理店、IFA(金融商品仲介業)、財務コンサルティングを軸としたゴールベース・アプローチに基づいた総合金融コンサルティングサービスの提供を行ってまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高2,615,449千円(前年同期比33.1%増)、営業利益111,065千円(前年同期は463,459千円の営業損失)、経常利益85,828千円(前年同期は476,729千円の経常損失)、当社の連結子会社が所有する顧客の一部を売却したことによる事業譲渡益30,000千円を特別利益に計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益75,405千円(前年同期は389,166千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

<ウェルネス事業>

ソフトウェアは、接骨院向け患者情報管理システム「Ligoo POS & CRM」とレセプト計算システム「レセONE」の機能を併せ持った「レセONEプラス」の販売や保守料、日本ソフトウェア販売㈱のシステム販売等を行いました。

「レセONEプラス」の新規販売数が前期に比べ減少した結果、売上高は313,498千円(前年同期比11.6%減)となりました。

機材・消耗品は、接骨院での自費施術メニューの拡大をサポートする為のツールである機材及び機材に付属する消耗品の販売をしました。その結果、売上高は219,878千円(前年同期比2.9%増)となりました。

コンサルティングは、顧客の課題に合わせた年単位など一定の契約期間を基本とする継続型のコンサルティング及び新規利用者の獲得を目的としたWebコンサルティングを行いました。また、接骨院の幹部または幹部候補者等向けの研修プログラム「GRAND SLAM」や経営者向けの「経営実践塾」等を展開したこと等により、売上高453,936千円(前年同期比1.4%減)となりました。

請求代行は、接骨院等における事務負担の軽減を目的とした療養費請求代行サービスを展開し、新規顧客開拓により会員数が増加しました。療養費早期支払サービスも利用者数や貸付残高が増加したことにより、売上高は280,659千円(前年同期比25.6%増)となりました。

健康サポートでは、IFMC.技術を用いた当社のヘルスケアブランド「Dr. Supporter」「My. Supporter」の接骨院への販売が堅調に推移し、リピート注文が多くありました。また、㈱イフミックウェルネスが総代理店として扱っているIFMC.加工を施した「環境芝」を販売したこと等により、売上高は563,421千円(前年同期比271.5%増)となりました。

なお、IFMC.技術を用いた商品・サービスは前連結会計年度までは機材・消耗品に含めておりましたが、第1四半期連結会計期間より新たに健康サポートとして商品・サービスを区分し、前年同期比較も変更後の数値に基づき記載しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,831,393千円(前年同期比30.5%増)、営業利益は97,450千円(前年同期は386,545千円の営業損失)となりました。

<ファイナンシャル事業>

保険代理店は、ウェルネス事業を展開する当社グループ及び提携先からの紹介等により生命保険及び損害保険の募集活動を行った結果、売上高は401,330千円(前年同期比22.3%増)となりました。

IFA(金融商品仲介業)は、ウクライナ情勢の長期化や欧米諸国の金融政策等によるマーケットの影響に加え、委託IFA数が減少しましたが、社内体制の強化且つ独自性のある安定的な収益モデルへ移行したことにより、売上高は262,296千円(前年同期比15.2%増)となりました。

その他は、一般事業会社の財務コンサルティング及びM&A仲介を受託したことにより、売上高は120,430千円(前年同期は5,703千円の売上高)となりました。

今後の成長に向けた人材への先行投資を行った結果、販売費および一般管理費が大幅に増加しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は784,056千円(前年同期比39.6%増)、営業利益は13,614千円(前年同期は76,914千円の営業損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は3,966,943千円となり、前連結会計年度末と比べ593,029千円の増加となりました。

流動資産は3,196,995千円となり、前連結会計年度末と比べ634,041千円の増加となりました。これは主に、現金及び預金が78,406千円減少したものの、売掛金が302,950千円、営業貸付金が283,104千円、商品が60,824千円、リース債権及びリース投資資産が35,214千円増加したことによるものであります。

固定資産は769,947千円となり、前連結会計年度末と比べ41,011千円の減少となりました。これは主に、投資その他の資産のその他に含まれる長期前払費用が62,884千円、繰延税金資産が9,236千円増加したものの、減価償却により有形固定資産が21,014千円、ソフトウェアが72,163千円、のれんが15,516千円、顧客関連資産が5,699千円減少したことによるものであります。

②負債

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は3,395,816千円となり、前連結会計年度末と比べ375,237千円の増加となりました。

流動負債は2,563,578千円となり、前連結会計年度末と比べ611,800千円の増加となりました。これは主に、短期借入金が386,000千円、未払費用が55,302千円、未払法人税等が33,430千円、未払消費税等が66,289千円、預り金が73,315千円増加したことによるものであります。

固定負債は832,237千円となり、前連結会計年度末と比べ236,563千円の減少となりました。これは主に、長期借入金が236,965千円減少したことによるものであります。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は571,127千円となり、前連結会計年度末と比べ217,792千円の増加となりました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益を75,405千円計上したこと、譲渡制限付株式報酬として新株式発行を行い、資本金、資本剰余金がそれぞれ71,064千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期は当初策定した業績予想の範囲内であると認識しているため、現時点では2023年5月9日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,172,994	1,094,587
売掛金	261,496	564,446
営業貸付金	469,074	752,178
商品	236,489	297,313
貯蔵品	1,174	848
リース債権及びリース投資資産	312,378	347,592
その他	110,000	140,112
貸倒引当金	△653	△86
流動資産合計	2,562,954	3,196,995
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	108,391	108,391
減価償却累計額	△33,860	△39,719
建物附属設備(純額)	74,531	68,671
車両運搬具	18,161	18,161
減価償却累計額	△17,815	△18,076
車両運搬具(純額)	345	84
工具、器具及び備品	133,200	135,885
減価償却累計額	△72,300	△87,194
工具、器具及び備品(純額)	60,900	48,691
建設仮勘定	4,072	4,700
有形固定資産合計	139,850	122,148
無形固定資産		
ソフトウェア	264,355	192,192
ソフトウェア仮勘定	28,800	30,784
顧客関連資産	10,133	4,433
のれん	143,420	127,904
その他	931	737
無形固定資産合計	447,641	356,051
投資その他の資産		
繰延税金資産	163,478	172,715
その他	63,393	122,298
貸倒引当金	△3,404	△3,267
投資その他の資産合計	223,467	291,747
固定資産合計	810,959	769,947
資産合計	3,373,914	3,966,943

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	37,575	41,485
短期借入金	714,000	1,100,000
1年内返済予定の長期借入金	498,472	509,816
未払金	152,843	142,872
未払費用	76,658	131,960
未払法人税等	11,666	45,097
未払消費税等	9,314	75,604
契約負債	62,739	49,404
預り金	360,601	433,916
賞与引当金	19,682	25,719
その他	8,223	7,701
流動負債合計	1,951,778	2,563,578
固定負債		
長期借入金	1,047,807	810,842
資産除去債務	20,993	21,065
繰延税金負債	-	330
固定負債合計	1,068,800	832,237
負債合計	3,020,579	3,395,816
純資産の部		
株主資本		
資本金	477,522	548,586
資本剰余金	396,490	467,554
利益剰余金	△491,036	△415,631
自己株式	△29,802	△29,802
株主資本合計	353,173	570,707
新株予約権	-	420
非支配株主持分	161	-
純資産合計	353,335	571,127
負債純資産合計	3,373,914	3,966,943

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	1,965,152	2,615,449
売上原価	1,100,121	1,170,415
売上総利益	865,030	1,445,034
販売費及び一般管理費	1,328,490	1,333,968
営業利益又は営業損失(△)	△463,459	111,065
営業外収益		
受取利息	5	37
保険解約返戻金	—	1,589
受取賃貸料	307	—
助成金収入	1,266	—
その他	577	443
営業外収益合計	2,157	2,070
営業外費用		
支払利息	11,777	15,495
株式報酬費用消滅損	3,349	11,597
その他	299	214
営業外費用合計	15,426	27,307
経常利益又は経常損失(△)	△476,729	85,828
特別利益		
固定資産売却益	37	—
事業譲渡益	—	30,000
特別利益合計	37	30,000
特別損失		
固定資産除却損	1,503	—
固定資産売却損	—	14
その他	26	—
特別損失合計	1,530	14
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△478,221	115,814
法人税、住民税及び事業税	17,305	49,476
法人税等調整額	△105,349	△8,906
法人税等合計	△88,044	40,570
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△390,177	75,244
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,010	△161
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△389,166	75,405

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△390,177	75,244
四半期包括利益	△390,177	75,244
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△389,166	75,405
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,010	△161

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年7月11日開催の取締役会の決議により、譲渡制限付株式報酬として、2023年7月31日付で新株式を75,600株発行し、資本金及び資本剰余金がそれぞれ71,064千円増加いたしました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が548,586千円、資本剰余金が467,554千円となっております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ウェルネス事業	ファイナンシャル 事業	計	
売上高				
ソフトウェア	321,561	—	321,561	321,561
機材・消耗品	124,044	—	124,044	124,044
コンサルティング	460,354	—	460,354	460,354
請求代行	223,371	—	223,371	223,371
健康サポート	151,661	—	151,661	151,661
保険代理店	—	328,159	328,159	328,159
IFA (金融商品仲介業)	—	227,720	227,720	227,720
その他	—	5,703	5,703	5,703
顧客との契約から生じる 収益	1,280,993	561,582	1,842,575	1,842,575
その他の収益 (注) 1	122,576	—	122,576	122,576
外部顧客への売上高	1,403,569	561,582	1,965,152	1,965,152
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,403,569	561,582	1,965,152	1,965,152
セグメント損失(△)	△386,545	△76,914	△463,459	△463,459

(注) 1. その他の収益は、ソフトウェア及び機材・消耗品のリース取引によるものです。

2. セグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報
(単位：千円)

	報告セグメント			四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ウェルネス事業	ファイナンシャル事業	計	
売上高				
ソフトウェア	284,623	—	284,623	284,623
機材・消耗品	153,122	—	153,122	153,122
コンサルティング	453,936	—	453,936	453,936
請求代行	280,659	—	280,659	280,659
健康サポート	563,421	—	563,421	563,421
保険代理店	—	401,330	401,330	401,330
IFA (金融商品仲介業)	—	262,296	262,296	262,296
その他	—	120,430	120,430	120,430
顧客との契約から生じる収益	1,735,763	784,056	2,519,819	2,519,819
その他の収益 (注) 1	95,630	—	95,630	95,630
外部顧客への売上高	1,831,393	784,056	2,615,449	2,615,449
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,831,393	784,056	2,615,449	2,615,449
セグメント利益	97,450	13,614	111,065	111,065

(注) 1. その他の収益は、ソフトウェア及び機材・消耗品のリース取引によるものです。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、「人生から不安をなくし、生きるをサポートする。」というブランドパーパスを掲げ、予防医療と金融サービスの提供を事業の柱とし、「からだ」と「おかね」という人生における2つの大きな『不安』をなくしていくことで、誰もが心から豊かで前向きになる『Wellness Life』が溢れる社会を実現していきます。

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称変更をしており、従来の「接骨院ソリューション事業」を「ウェルネス事業」に、「金融サービス事業」を「ファイナンシャル事業」に名称を変更しております。

また、ウェルネス事業セグメント内に「健康サポート」を新設して、従来「機材・消耗品」に含めていた当社ヘルスケアブランドであるDr. Supporter及び株式会社イフミックウェルネスにて提供する商品・サービスを「健康サポート」に含めております。この変更は、当社グループとして、IFMC.技術を用いた製品の販売を中心として、消費者向け商品の販売に注力していくためであります。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。